

令和に飛躍するために



清水建設株式会社
専務執行役員
技術研究所長
石川 裕

令和元年、技術研究所は創設 75 周年を迎えました。皆様のあたたかいご支援の賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成の時代は、阪神・淡路大震災と東日本大震災という 2 つの大震災をはじめ、御嶽山の噴火、数々の風水害や雪害など多くの災害に見舞われました。令和に入った今年も、台風 15 号と 19 号により大きな被害が生じており、時代が替わっても災害対策の重要性は変わらないところです。

他方この間、インターネット、スマートフォン、クラウドコンピューティングに代表されるデジタル技術の台頭によって、暮らしや仕事に大きな変革がもたらされました。デジタルトランスフォーメーションの流れはこの先も加速されることが予想され、建設分野でも i-Construction やコンピューテーショナルデザインをはじめとして、施設管理や運用サービスなどでも技術革新が期待されています。

今回お届けする研究報告では、特別寄稿「技術研究所 75 周年～創設からの歴史を振り返る～」を掲載いたしました。50 年史を振り返るとともに、特に平成時代の活動に焦点をあて、特徴的な研究開発成果についてまとめました。

小特集は「数値解析」を取り上げました。情報化技術の一翼を担うコンピューターの進化とともに、複雑な挙動を再現する数値解析は高度化しています。小特集では、流体解析、CFD、地震動予測、材料・構造分野での破壊解析などの関連する論文を掲載しています。一般論文では、建築・土木の施工技術のほか、バイオテクノロジーやエネルギー分野の基礎研究など、11 編の研究開発成果を紹介しています。

弊社は、本年 5 月に「SHIMZ VISION 2030」を公表しました。技術研究所では、今後とも次代を先読みした研究開発に磨きをかけ、社会の期待を超える技術と価値の創出を目指します。